

## 贈る言葉

名部井 敏 代

アラン・ハント先生とは、共に本学に着任した2003年以來のご縁です。大学院を修了したばかりの新米教師・研究者の私にとって、日本の大学で外国人教師・研究者としてすでに確固たる立場を築き豊かなご経験をお持ちのハント先生は、尊敬すべき先輩でした。ご専門は英語の語彙習得で、その熱意は先生のメールアドレスに「vocab（語彙）」の文字の一部が含まれていたことから伝わってきました。当時の私は、その小さな文字列にも「研究に真摯に向き合う学者らしさ」を感じ、いたく感心したことを覚えています。

着任当初、ハント先生の外見が映画俳優クリストファー・リーヴに似ていると話題になったことも、今となっては懐かしい思い出です。仕事以外の場でも、先生とは不思議と「ばったり」お会いすることがよくありました。自宅近くの駅前の公園で出会ったり、大阪・梅田のオープンスペースで開かれているイベントで偶然お見かけしたり。どうやら、お互いにリフレッシュの場として惹かれる環境——広々とした空間や人々の楽しげな雰囲気——が似ているのかもしれませんが。

研究面でも、先生には大変お世話になりました。ライティング指導の二つの方法を比較する実験的な調査を計画していた際、ハント先生がご自身のクラスでそのうちの一つを実施していただき、研究の遂行を支えてくださいました。協力を快く引き受けてくださったことに、今でも感謝しています。

また、入学試験の作問委員会でも長くご一緒しました。作問は、細部にまで神経を使う責任の重い仕事です。特に英語の設問では、文章や表現に対する繊細な判断をネイティブ・スピーカーの先生方をお願いすることが多く、ハント先生には大きなご負担をおかけしたと思います。それにもかかわらず、先生はいつも丁寧で誠実なお仕事を続けてくださいました。体調が優れない時期もあったと記憶していますが、変わらず真摯な姿勢で職務を果たされるお姿には、委員会の一員として心から敬意を抱いておりました。

最近のご健康の面でご苦労もあったと伺っていますが、退職後はどうか大学の仕事から離れ、心身ともにゆっくりと回復されますように。そして、またお好きな場所で、心穏やかな時間を楽しまれることを願っています。長年にわたり本学部の教育と運営にご尽力くださったアラン・ハント先生に、心から感謝申し上げます。